

金融 API 活用の国内外の状況

日本の金融フィンテック

データを見るだけ

金融機関	残高
A銀行	¥300,000
B銀行	¥150,000
C信用金庫	¥100,000
D信用組合	¥80,000

海外の金融フィンテック

振込や振替が自由に行える

金融機関	残高
A銀行	¥300,000
B銀行	¥150,000
C信用金庫	¥100,000
D信用組合	¥80,000

金融機関	残高
A銀行	¥300,000
振込	
銀行名	C銀行
支店名	E支店
口座番号	123456789
金額	¥100,000

クリック

フィンテックサービス創出

銀行共通API開発研究会

銀行API 標準仕様策定

会計ソフトや会計事務所など26社・団体が参加する「銀行共通API開発研究会」は、フィンテック（金融とITの融合）市場の活性化に向けて、金融機関とフィンテック企業のサービス連携に必要な「銀行API」の標準仕様を策定し、8日から無償公開する。銀行ごとに異なるAPI仕様の共通化に一石を投じることで、金融機関とフィンテック企業のビジネス連携拡大や多様なフィンテックサービスの創出を促す。

銀行APIとは、預グラムインターフェースの口座を管理するス（API）。メガバンクの銀行ごとに一つ一つ、フィンテックサービスは銀行APIを公開しているもの、仕様が異なるのが現状だ。

APIの共通化とは、スマートフォンに例えると、充電・通信ケーブルのソケットを共通化しようとする。ソケット部分（API）の仕様を共通化すれば、フィンテック企業によるサービス開発を効率化でき、横展開も可能となる。

一方、金融機関は既存のシステムを更替しなくても、多様なフィンテック企業との連携を通して、ユーザーの利便性を向上できる。

銀行共通API開発研究会は、フィンテックの技術者支援やデータ共通基盤の整備などを推進する一般社団法人のフィンテックガ

ユーザーの利便性向上 無償で公開

デン（東京都中央区）を運営主体として、2020年に発足。メンバーは現在、エプソン販売（東京都新宿区）、フリーウェイジャパン（東京都中央区）、辻・本郷税理士法人（東京都新宿区）、ROBOT P A Y M E N T（東京都渋谷区）など26社・団体に及ぶ。研究成果となる銀行共通APIの標準仕様は金融機関のほか、関係官庁やIT企業にも無償で提供する。

フィンテック市場は欧米、中国、インドなどの海外が活発で、米国内などでは不特定多数から資金を集めるソーシャルレンディング（貸し付け型クラウドファンディング）やフィンテック企業による中小企業融資も伸びている。

日本でもフィンテック企業が多数起業し、金融機関や一部の大企業との協業が拡大している。しかし、現状はAPIが共通化されていないため「参照系」と言われる口座閲覧サービスが中心であり、潜在力を引き出しきれない。フィンテックサービスは金融商品や他行への振り込み、資金移動などが本丸とされる。このため、多様なサービスの創出が課題となっている。